

令和8年2月17日

## 尾小屋マインロードの活用等に係るサウンディング型市場調査の結果概要について

石川県立尾小屋鉱山資料館に併設されている旧坑道を活用した展示施設の尾小屋マインロードについて、民間事業者や地域団体等の皆様との個別対話を通じて、新たな活用の可能性や事業化の課題等についてご意見やご提案をいただき、尾小屋マインロードの改修や資料館周辺の持続活性化に向けた「尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化基本計画」の策定に反映することを目的として、サウンディング型市場調査を実施しました。

今回、民間事業者や地域団体等の皆様との個別対話を実施し、結果を取りまとめましたので、その概要を次のとおりに公表します。

### 1. 実施概要

#### (1) 実施要領の公表

令和7年10月22日（水）

#### (2) 説明会・現地見学会

実施日：令和7年11月17日（月）

参加者：4者

#### (3) 個別対話

実施日：令和8年1月13日（火）～19日（月）

参加者：4者 ほかに提案資料提出のみ1者

### 2. 個別対話の主な内容

#### (1) 坑道空間の活用アイデア

坑道空間の特性（暗さ、閉鎖性、安定した温湿度等）を活かし、没入型体験・学習型展示として活用するアイデアが挙げられた。また、活用にあたっては、小規模な試験導入から段階的に展開することが現実的との意見もあった。

○鉱山作業を追体験できる体験型プログラムや展示等の展開が考えられる。

○安定した温湿度環境を活かし、食品・飲料等の熟成・保管といった通常非公開区間での新たな活用案が考えられる。

○人気のあるトロッコ運行について、トロッコの増車、運行用レールの距離延長やバリアフリー化を希望する。

○イベント利用として、宝探しなどの参加型プログラムや、期間限定の体験企画の組み合わせが考えられる。

#### (2) 事業化の採算性・マーケット性

主なターゲットとして、観光客、教育利用などが挙げられた。自主事業単独での安定的な

採算性の確保は容易ではなく、イベント型・団体利用等を組合せた事業構造が望ましいとの意見があった。

- ターゲットは知的好奇心の強いアクティブ層やツアー団体のほか、地域学習の場としても活用が考えられる。
- 資料館の入館料とは別に、体験プログラムの参加費を設定することで、一定の事業性を確保できる可能性がある。
- 坑道内で熟成した食品・飲料等を、イベント時の限定販売のほか、坑道外（まちなか・周辺地域）での販売展開につなげることが、観光消費拡大・周遊促進の観点から重要である。

### (3) 官民連携の可能性

管理運営手法や、市に期待する役割、民間事業者が担える役割について、役割分担も含めて意見があった。

- 管理運営手法として、指定管理制度や、市と民間が役割分担する形での連携が考えられる。
- 市には、施設整備、制度設計、広報等の役割を期待する。民間事業者は、企画立案・運営・コンテンツ開発等を担うことが考えられる。
- 実証的な取り組みや試行事業を通じて、官民の役割分担を段階的に整理していくことが望ましい。

### (4) 課題・懸念点

坑道内の高湿度環境に起因する安全管理・衛生管理への配慮が必要との意見があった。また、駐車場や交通手段の充実のほか、一過性のリニューアルに終わらせないため、事業の継続性・担い手の確保が重要との意見があった。

- 坑道内での食品・飲料等の熟成にあたり、湿度が高い環境でのカビ対策や、温湿度の変動が品質に与える影響を継続的に検証することが必要と考える。
- 検討段階から地域の方と協働し運営にも参画していただける仕組みづくりが事業継続性の観点から重要と考える。

### (5) 資料館及び尾小屋町・西尾地区との連携

坑道内での体験を起点に、周辺地域への回遊や消費につなげる仕組みづくりが重要であるとの意見があった。

- 資料館については、展示機能に加え、周辺地域の情報発信拠点としての役割を強化することが必要である。
- 尾小屋町や西尾地区の地域資源（歴史・産業・物産等）と連携したイベントや体験プログラムの展開が考えられる。

### 3. 今後の予定

本調査で得られたご意見やご提案も参考にしながら、尾小屋メインロードの改修や資料館周辺の持続活性化に向けた基本計画の検討を進めていきます。

なお、これらの内容は、現時点での意見・提案の概要であり、今後の計画内容への反映を保障するものではありません。